

第2回 内航海運活性化・グリーン化に関する懇談会 議事概要

1. 日 時

6月 3日（水） 14：00～16：15

2. 場 所

三田共用会議所3階 第三特別会議室

3. 出席者

委員：杉山座長、中泉委員、北條委員、村山委員、上野委員、村木委員、谷口委員、藤澤委員（（代理）大内副組合長）、石渡委員、岡口委員（（代理）花木参事）、興村委員

（海事局）伊藤局長、大野次長、又野審議官、染矢技術審議官、丸山参事官、赤星参事官、蒲生総務課長、山本企画室長、小久保課長補佐、堀内財務企画室長、坂下安全・環境政策課長、萩川海事人材政策課長、蝦名内航課長、中野企画調整官、西村運航労務課長、今出船舶産業課長

（港湾局）下司企画室長

（オブザーバー）

（政策統括官）山口参事官

4. 議 題

1. 内航海運活性化・グリーン化について
2. その他

5. 議事概要

①事務局から第1回懇談会の後、開催されたWGの検討経緯等について説明があった。

②中泉主査から、「WGで指摘された主要な論点等」（資料2）についての説明があった。

この資料は、WGで出た論点をまとめたものであり、懇談会の場で議論を深めてもらいたい。

この際、「官民双方で最大限何ができるか」という視点を重視して議論を深めてもらいたい。

③国土交通省から資料3～資料11について説明があり、その後、意見交換が行われた。

主な意見等は次のとおりである。

- ・「規制緩和の積極的推進」とあるが、緩和だけではなく、規制強化の必要なところもあるのではないか。
- ・中小造船所のキャパについては、外航の場合、数年分の工事量がある。内航はそれが難しい。平準化した発注をしてもらえると一定のキャパは保てる。
- ・モーダルシフトについては、海上輸送は環境にやさしい輸送モードであることをもっと積極的にアピールすべきである

・一事業者だけでなく、フォアダーも含めたパートナーシップが重要。それぞれの主張はあるが、その中でより良いものを作り上げるという姿勢を忘れてはいけない。また、お客様がどのモードを使用するか、安く、早く、安全という観点から即座に判断できるようなトータルなシステムを構築すべきである。それにはモード間のつなぎ、情報システム化も検討しなければならない。

・SESについては、共有建造制度を活用してタンカー分野等で普及し、船主や船員から高い評価を受けている。今後も、内航海運の競争力強化、グリーン化という方向に共有建造制度を活用してもらいたい。それから、グループ化の推進については、如何にインセンティブを付与していくかが重要である。元請けオペ、荷主まで含めて業界としてとらえ、政策誘導型の支援を考えていくことが理想ではないか。

以 上